

# 家庭の経済状況と子どもの友人関係および自尊感情との関連 —サードプレイスの調整効果—



Contact: sakai-atsushi@tmu.ac.jp

○酒井厚<sup>1</sup> 阿部彩<sup>1</sup>

<sup>1</sup>東京都立大学人文社会学部

\*本研究で使用したデータは、著者の所属機関の研究倫理委員会で承認された調査と自治体調査の二次利用によるものである。

## 目的 家庭の経済状況は友人関係の要因を含めても自尊感情と関わるか、またサードプレイスはどうか。

- 家庭の経済状況の悪化は、親の不適切な養育などを介して児童・思春期の子どもの自尊感情の低下に関わる(Doi et al., 2019)
- しかし、家族以外に重要な友人関係も含めて検討した研究は極めて少ない(Neber et al., 2001)
- また、家庭でも学校でもないサードプレイスの機能に注目した検討はほとんど行われていない(藤原, 2023)

## 方法 子ども自身の経済状況評価として、はく奪されている物(同年代の多くは持っている“必需品”)の欲求に注目。サードプレイスは無料で過ごせる「児童館」「公園」「図書館」「商店街・ショッピングモール」の利用や支援制度。

- 参加者: 2016年から2019年にかけて東京都内(墨田区、豊島区、世田谷区、中野区、調布市、日野市、狛江市)で実施した調査(住民基本台帳から抽出した悉皆調査、郵送法)に参加した小学5年生・中学2年生の子どもがいる家庭。今回は使用する変数すべてに回答した6,789家庭のデータを使用
- 調査内容: (親は親評価)

- ・家庭の経済状況: 家庭一人あたりの所得、家計の逼迫度(親)、子どもによるはく奪物への欲求(Table 1): 項目ごとに、なくて欲しいを1、あるまたはなくて欲しくないを0として合算
- ・友人関係の質: 友人関係の良好さ3項目(Kid-KINDL, 古荘他, 2014, 4件法,  $\alpha=.74$ )と自己開示1項目(4件法)の合算
- ・平日・休日に過ごす場所: 自宅、友人宅、サードプレイス各所において1週間で平日の放課後に過ごす日数(毎日: 3~全く過ごさない: 0)と休日に過ごす場所の有無(あれば1、なければ0)
- ・平日・休日に過ごす人: 平日の放課後と休日それぞれで一緒に過ごすことが一番多い人を選択。両日で選択されれば各1、なければ0として合算
- ・子ども支援制度の利用(親): 子育てひろばや子ども食堂など6つの制度の利用経験の有無。各項目あれば1、なければ0として合算
- ・子どもの自尊感情: 阿部・埋橋・矢野(2014)が作成した自己肯定感尺度。「自分は価値のある人間だと思う」など6項目(5件法,  $\alpha=.83$ )

Table 1 はく奪物に関する項目と欲求の有無 (値は項目ごとの%, 各列左側は小5, 右側が中2)

	ある	ない	
		欲しい	欲しくない
自分だけの本 (教科書・マンガ除)	88.2 / 90.6	5.6 / 2.7	6.2 / 6.7
子ども部屋 (きょうだいと共有あり)	72.7 / 81.2	21.3 / 14.4	6.0 / 4.4
自宅でインターネットにつながるパソコン	68.8 / 79.2	16.6 / 13.5	14.6 / 7.3
自宅で宿題をすることができる場所	95.9 / 96.7	2.7 / 2.4	1.4 / 0.9
自分専用の勉強机	76.1 / 88.9	15.6 / 5.9	8.2 / 5.2
スポーツ用品	77.7 / 78.0	3.2 / 2.7	19.1 / 19.4
ゲーム機	80.9 / 83.8	8.7 / 4.9	10.4 / 11.3
たいていの友だちが持っているおもちゃ	66.6 / 68.5	12.2 / 7.3	21.2 / 24.2
自転車	95.8 / 91.5	2.4 / 4.1	1.8 / 4.4
おやつやちょっとしたおもちゃを買うお小遣い	80.2 / 88.0	11.7 / 7.8	8.2 / 4.2
友だちが着ているのと同じような服	64.7 / 73.0	7.1 / 5.3	28.2 / 21.6
2足以上のサイズのあった靴	89.5 / 91.6	4.4 / 4.5	6.1 / 3.8
携帯電話、スマートフォン	58.2 / 80.1	30.2 / 15.5	11.6 / 4.4
携帯音楽プレーヤーなど	24.7 / 56.9	38.0 / 22.8	37.4 / 20.3

## 結果と考察 はく奪物への欲求は友人関係を考慮しても自尊感情の低さを予測。サードプレイスによる効果もあり。

1. 学年ごとに自尊感情を従属変数とする重回帰分析を実施した(Table 2)。小5と中2に共通して、家庭一人あたりの所得や家計の逼迫度ではなく、はく奪物への欲求の高さが自尊感情の低さを有意に予測した。

➡ 実際の家庭の経済状況よりも、子ども自身が感じる“必需品のなさ”に伴う欲求が自尊感情を低めることを示唆

2. 小5・中2に共通して、休日に家やサードプレイスのどこかで過ごすことが自尊感情の低さを有意に予測した。また、平日・休日に一人で過ごすことが自尊感情の低さを有意に予測した。

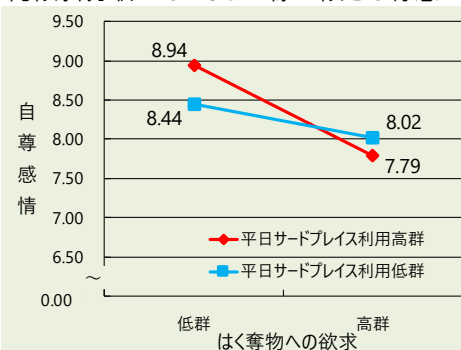
➡ 休日に家やサードプレイスで一人で過ごすことは、自尊感情の低さと関連するかもしれない

3. 小5・中2に共通して、友人関係の質は自尊感情の高さを有意に予測した。一方で、小5では平日・休日に友人と過ごすことが自尊感情の低さに関わり、支援制度の利用は高さに関わっていた。

➡ 友人とただ過ごすだけでは自尊感情が低くなる可能性あり。友人関係の質が重要であり、子ども支援制度も有効

4. 小5では、はく奪物の欲求と平日サードプレイスで過ごすことの交互作用が有意(Figure 1)であり、単純傾斜分析でもどちらの線の傾きも有意( $\beta=.05-.15, p < .05$ )であった。

➡ はく奪物の欲求が低い場合は、サードプレイスの利用が多い方が自尊感情が高い。しかし、欲求が高い場合に利用が多いと自尊感情が低く、周囲の子との比較から引け目を感じてしまうことがあるのかもしれない



\* $p < .05$ , \*\* $p < .01$

Figure 1 自尊感情に対する交互作用の結果

Table 2 自尊感情を予測する要因の検討 (値は標準化偏回帰係数)

	小5 (N=3,509)	中2 (N=3,280)
家庭一人あたりの所得	.03	.01
家計の逼迫度	.00	-.01
性別 (男子1, 女子0)	.02	.07 **
はく奪物への欲求	-.10 **	-.11 **
友人関係の質	.46 **	.42 **
平日過ごす場所 (家)	-.02	-.01
平日過ごす場所 (友人宅)	-.02	-.01
休日過ごす場所 (家)	-.07 **	-.07 **
休日過ごす場所 (友人宅)	.01	-.02
平日・休日過ごす人 (家族)	-.01	-.01
平日・休日過ごす人 (友人)	-.07 *	-.06
平日・休日過ごす人 (一人)	-.08 **	-.10 **
平日過ごす場所 (サードプレイス)	.02	.02
休日過ごす場所 (サードプレイス)	-.04 *	-.07 **
子ども支援制度利用	.03 *	.01
はく奪物欲求×平日サード	-.05 **	-.02
はく奪物欲求×休日サード	.01	.01
はく奪物欲求×支援制度	.01	.01
調整済みR <sup>2</sup>	.25 **	.22 **

\* $p < .05$ , \*\* $p < .01$